

## 冬期間および時間的制約のある夜間工事における 週休2日の労務単価の計算方法について

### ◆冬期間の夜間工事における週休2日の労務単価の計算方法

#### 1 計算方法

「夜間工事の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価（小数点以下切捨て）」に「冬期間の補正係数を乗じた日中の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価（小数点以下切捨て）」とを足し合わせます。

#### 2 計算式

上記1を計算式で表すと以下の手順の計算となります。

A：「夜間工事の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価」

B：「冬期間の補正係数を乗じた日中の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価」

(1)  $A = (\text{日中の労務単価}) \times (\text{夜間等の時間帯割増係数}) \times (\text{週休2日補正係数})$

(2)  $B = (\text{日中の労務単価}) \times (\text{冬期工事における割増率}) \times (\text{週休2日補正係数})$

(3) AとBそれぞれの小数点以下を切捨てる。

(4) A+Bにより、冬期間の夜間工事における週休2日の労務単価が算出できる。

#### 3 計算例

計算条件を以下とし、計算例を示します。

日中の労務単価：19,000 円 夜間等の時間割増係数：1.5

冬期工事における割増率：3% 週休2日補正係数：1.05

(1)  $A = 19,000 \text{ 円} \times 1.5 \times 1.05 = 29,925 \text{ 円}$

(2)  $B = 19,000 \text{ 円} \times 0.03 \times 1.05 = 598.5 \text{ 円}$

(3) A = 29,925 円、B = 598 円

(4)  $29,925 \text{ 円} + 598 \text{ 円} = 30,523 \text{ 円}$

## ◆冬期間かつ時間的制約のある夜間工事における週休2日の労務単価の計算方法について

### 1 計算方法

「夜間工事の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価（小数点以下切捨て）」に「冬期間の補正係数及び時間的制約の補正係数を乗じた日中の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価（小数点以下切捨て）」とを足し合わせます。

### 2 計算式

上記1を計算式で表すと以下の手順の計算となります。

A：「夜間工事の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価」

B：「冬期間の補正係数及び時間的制約の補正係数を乗じた日中の労務単価に週休2日補正係数を乗じて算出した単価」

$$(1) A = (\text{日中の労務単価}) \times (\text{夜間等の時間帯割増係数}) \times (\text{週休2日補正係数})$$

$$(2) B = (\text{日中の労務単価}) \times (\text{冬期工事かつ時間的制約工事における割増率}) \times (\text{週休2日補正係数})$$

(3) AとBそれぞれの小数点以下を切捨てる。

(4) A+Bにより、冬期間および時間的制約のある夜間工事における週休2日の労務単価が算出できる。

### 3 計算例

計算条件を以下とし、計算例を示します。

日中の労務単価：19,000 円 夜間等の時間帯割増係数：1.5

冬期工事かつ時間的制約工事における割増率：9% 週休2日補正係数：1.05

$$(1) A = 19,000 \text{ 円} \times 1.5 \times 1.05 = 29,925 \text{ 円}$$

$$(2) B = 19,000 \text{ 円} \times 0.09 \times 1.05 = 1795.5 \text{ 円}$$

$$(3) A = 29,925 \text{ 円}、B = 1795 \text{ 円}$$

$$(4) 29,925 \text{ 円} + 1795 \text{ 円} = 31,720 \text{ 円}$$